



箱根 富士屋ホテル

The Fujiya Hotel

【古写真DATA】 長崎大学附属図書館蔵

写真名称：宮ノ下富士屋ホテル⁽²⁾
英語名称：Fujiya Hotel, Miyanoshita
目録番号：1349
撮影者：撮影者未詳
アルバム名：撮影者未詳
撮影地域：箱根
年代：年代未詳
色彩：カラー
形状：82x82
整理番号：31 6 0
キーワード：ホテル/近代建築/花木

古写真に見る

近代ホテルの黎明期 3

工学部教授

岡林 隆敏

Okabayashi Takatoshi

横浜に外国人居留地が建設されると、居留外国人は近くの温泉場箱根に注目し、緑の美しい空気乾燥した高地をリゾート地と考えた。明治5年(1872)5月7日、新橋・横浜間に鉄道が開通し、また、明治20年(1887)には、横浜・国府津間が開通し、東京から箱根への距離は短くなった。翌明治21年には、国府津・湯本(箱根湯本)間が小田原馬車鉄道として開業した。明治33年(1900)になると、馬車鉄道は廃止され、全線を電気鉄道に変更、東京から箱根に至る鉄道の近代化は完成した。

明治11年(1878)、山口仙之助は、箱根宮ノ下に500年の歴史を有する安藤勘左衛門経営の温泉旅館「藤屋」を買収し、これを洋風に改造して「富士屋ホテル」と改称、外国人専門のホテルを開業した。しかし、このホテルは明治16年(1883)12月12日、隣家の出火により類焼した。翌年から再興を始め、明治20年までに、平屋建て洋館、日本館、2階建て洋館を建設する。明治23年(1890)、

「富士屋ホテル」本館の新築に着工、翌年竣工した。これが写真中央の建物である。外国人宿泊客を意識した日本趣味の建物であり、寺社建築を思わせる瓦葺の屋根、唐破風の玄関、前面はガラス窓と、東洋と西洋を融合した建物となり、今日に至っている。

宮ノ下には、伝統のある「奈良屋ホテル」もあつた。明治16年、前述の火災により焼失するが、「富士屋ホテル」とは違った純西洋風の建物で再建された。「奈良屋ホテル」は、大正12年(1923)の関東大震災で倒壊し、再建されることはなかった。

「富士屋ホテル」の経営者である山口仙之助は、率先して箱根の近代化に努め、明治18年(1885)から明治20年に、塔之沢から宮ノ下まで近代的な道路の改修を行っ

た。現在の国道1号線である。さらに、電力事業の近代化に努め、明治24年(1891)火力発電機を買い入れ自家発電を始め、また、ホテル裏手の小瀧を利用して水力発電を開始した。同年春に竣工した「富士屋ホテル」本館は、火力発電により初めて電灯が灯された。リゾートホテルは、都市部で始まった日本の近代化をいち早く取り入れ、地方の近代化の最前線に立っていた。明治24年4月、長崎に上陸したロシア皇太子ニコライ二世は、この「富士屋ホテル」に宿泊する予定であったが、「大津事件」が発生し、宿泊は中止になった。

長崎大学附属図書館「幕末・明治期日本古写真画像データベース」で検索すると、箱根141件、宮ノ下20件、富士屋ホテル41件、奈良屋ホテル10件の写真が見つかる。

【幕末・明治期日本古写真画像データベース】

<http://oldphoto.lib.nagasaki-u.ac.jp>

参考：桐山秀樹、日本別荘地物語(福武書店)

山口由美、箱根富士屋ホテル物語(トラベルジャーナル)